

# 基本の技・一生の宝【第5号】「読書力」編

授業が始まる前の時間を利用して学校で本を読む習慣「朝の読書」。1988年、千葉県の高校でスタートした「朝の読書」運動は全国の小・中・高校へ広がり、実践校は27,012校(H24.1.13現在)に達し、「集中力がついた。」「他人の気持ちが変わるようになった。」「読書が好きになった。」「子どもたちに落ち着きが出てきた。」など、様々な教育効果を上げています。西脇市においても、本市の教育振興基本計画(え～まち西脇!! e-プラン)の まなぼうプラン・「すてきな言葉発するプラン」の一環として、精力的に読書活動を推進しています。

また、学校での「朝の読書」に対して、家庭での「家読(うちどく)」(家庭読書・家族読書)に積極的に取り組む家庭や学校も増えてきました。「家読」とは、家族が共に本に親しむことで、同じ本や互いが読んでいく本についての会話を広げ、家族の絆を深めようとする企画です。「朝読」から「家読」へ発展させていく中で、集中力・語彙力・コミュニケーション力・豊かな人間性等のさらなる向上にもつながります。様々な場で確かな読書力を育むことは、子どもたちの**一生の宝**となり、**生き方の基盤**を拡充していきます。

## ◆「家読」(うちどく)のポイント!

**《家読で「読みニケーション」を広げよう!》**

- ① 家族で話し合って「家読の日」を決めよう
- ② わが家の家読スタイルを話し合って決めよう
- ③ 家族で話し合って読む本を決めよう
- ④ ノーテレビ・ノーゲームで「家読」をしよう
- ⑤ 年齢にあったスキンシップをといながら「家読を」しよう
- ⑥ わが家の家読の記録を残そう
- ⑦ 家族が読んだ本で話し合おう
- ⑧ 家庭文庫を作ろう
- ⑨ 図書館に行こうデーをつくろう
- ⑩ 「家読」の輪を広げよう

～家読推進プロジェクトから～  
「家読推進プロジェクト」とは、朝の読書推進協議会の事務局長を務めていた佐川二亮氏が朝の読書の成果を家庭にまで広げようと2006年に立ち上げた運動です!

本を読む時は、「テレビを消す」「携帯をさわらない」といった読書に集中できるような工夫をするなど、家庭で話し合ってみましょう。

読書のスタートは、家族のひざの上での読み聞かせから。あたたかい語りから本の世界に入れるといいですね。

同じ本を読んだり、それぞれが好きな本を読んだりして、互い

市図書館では、毎週水曜日に「絵本の時間」、土曜日に「おはなし会」をしています。登録すれば、読みたい本をインターネット予約する

## ◆「家読に挑戦 はじめの一步!」の取組から(桜丘小学校)

桜丘小学校では、学校での「朝の10分間読書」に加えて、本年度から家庭での親子読書「家読(うちどく)」の推進を行っています。特に、夏休みと冬休みには各ご家庭に協力を願って「家読に挑戦 はじめの一步!」カード

### 家の人に聞きました!

★「家読」など読書の効果には、どんなことがあると考えておられますか。

- 継続することで読む速さが増す(82%)
  - 言葉や漢字をより多く覚える(97%)
  - 考え方の幅が身につく(82%)
  - 多様な知識が身につく(92%)
  - 継続することで読む本の分野が広がる(79%)
- というような結果でした。保護者も多くが語彙の増加など読書の効果を認めています。

### ★「家読」の感想から

長文の本でしたが、すごく楽しい本だったので、頑張って読みました。絵本を読む機会は寝る前などにとれていますが、家読として家族みんなで20～30分読書に取り組むのはなかなか大変でした。今後このような時間が増やせたら…と思います。

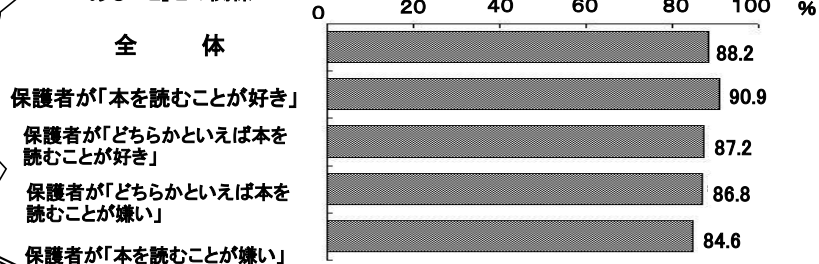
日々慌ただしくバタバタしている中で、ゆったりと本を読むことで、気持ちも癒されました。子どもが本が好きなので、話しかけても気づかないくらい集中していました。

家では小さい子どもが多くて、なかなかゆっくり二人で静かに本を読むことができませんでしたが、この取組は親子でゆっくり過ごす時間もとれ、親子関係にはいい事だと思います。

小さい頃は読み聞かせをしていましたが、今はそれもなくなり、自分で読んでいます。子どもは時間があれば読んでいますが、親子で同じ本を読んで話し合う事は少ないので、子どもから本の内容を聞くだけでなく、親も努力したいと思っています。

保護者が本を読む事が好きな場合は子どもも本が好きな割合

1ヶ月の間に1冊以上本を読んだ児童・生徒の割合と保護者が「本を読むことが好きであること」との関係



H16 文部科学省委託事業「図書館の情報拠点化に関する調査研究」から

西脇市教育振興基本計画「え～まち西脇!! e-プラン」

西脇市教育委員会

行動目標1 私たち西脇市民は、**あ** **た** **ま**を鍛えましょう!! の**ま**なぼうプランの1つとして…

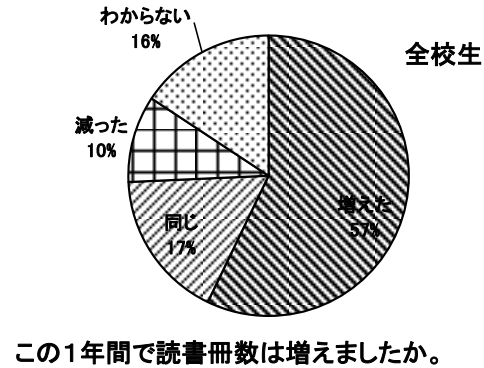
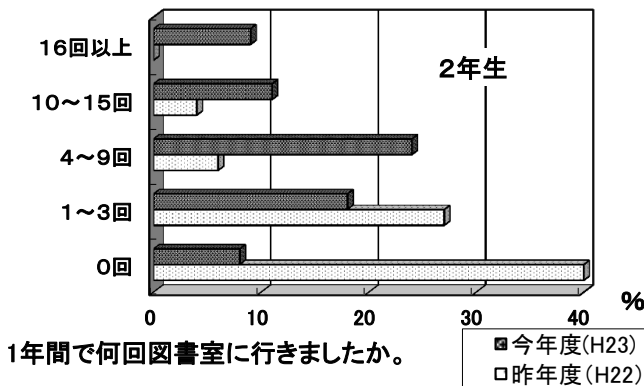
行動目標2 地域教育力向上3プランの1つ「すてきな言葉発するプラン」として…

家庭・地域・学校の連携促進 「家庭と連携した子どもたちの生活・学習基盤形成」促進

## ◆「家読に挑戦!!」の取組から(黒田庄中学校)

黒田庄中学校においても、学校での「朝の10分間読書」と家庭での読書「家読」に取り組んでいます。学校で、読書の実態を把握するために、生徒へのアンケートを実施したところ、生徒が「朝の読書」で主に読んでいた本は、自分が購入した本や友だちから借りた本が大多数を占め、学校の図書室や市の図書館の本はあまり読まれていないことがわかりました。

そこで、黒田庄中学校では、「図書室に行こう!」を目標にかかげ、まず蔵書数を増やすために、市の図書館から1ヶ月に1度の割合で100冊ずつ本を借りることにしました。さらに、魅力的な図書室になるような展示の工夫をしたり、図書だよりでお薦めの本を紹介したり、夏休みに「家読」への挑戦を呼びかけたりするなどの取組を続け、生徒の読書意欲を高める工夫をしています。



### 「家読に挑戦!!」…生徒の皆さんの感想です!

- 始めはめんどくさいなあと思っていたのですが、やっているうちに…本当に読書は自分の世界が広がるし、言葉や考え方が自分と全然違ったりしておもしろいです。これからもこの時間を生かしていきたいです。
- 本を読むことがだんだん習慣になってきてよかったです。
- 私は普段からよく本を読んでいるので、楽しかったのですが、家族は本を読むのが苦手で、苦戦しているようでした。でも家族で本を読む機会はなかったため、こういう機会があつてよかったです。
- 初めて家の人と本を読みました。「本のこと」を話すことも珍しかったのですが、ちよくちよく話をするようになりました。家読をして、家族と話す話題が増えた気がします。



### 「家読に挑戦!!」…保護者の皆さんの感想です!

- テレビを観る時間を減らして、読書をするのはとてもよいと思います。姉から薦められた本を読んで、2人で「ここがよかった。あそこがどう。」と話しあっていました。
- 親が本と無縁の生活を送っているため、子どもも本好きとはいえません。これを機会に図書館を利用して本を読みたいと思います。
- 家の中に読書をする空気が生まれ、私自身も何年かぶりに読書に集中することができました。
- 半日ノーメディアでも結構しんどかったです。日頃自分が携帯電話にいかにかかっていたかがわかりました。
- 私自身が時間を作ることに挑戦できましたし、子どもの考え方や物事への感じ方などを知る手がかりになり、よい機会になりました。想像をはせる子に育ててほしいです。

### 黒中の先生に聞きました!

- 明石の県立図書館から泉村靖治先生をお招きして、クラスごとに「読書の楽しみ」ということで本の紹介をしていただき、生徒の意欲が高まりました。
- 黒中の5月の月平均読書冊数は2.2冊でした。全国の平均読書冊数は4.2冊です。そこで、全員が全国平均に達するよう、「全国平均にチャレンジ!!」ということで黒中の読書目標を38冊としてがんばってきました。それをクリアする生徒も出ています。
- 3年生は中学生活も残りわずか。本を読む時間も惜しい季節ですが、春になり時間ができれば、また読書に親しんでほしいです。

### 「西脇市図書館」…親しみのある図書館をめざして

西脇市図書館に登録することによって、図書館のホームページから、借りたい本の予約ができます。また、「購入してほしい本」がある場合は、図書館の貸出受付で、リクエストカードに書名を書いて購入依頼をすることもできます。

最新刊、新刊、ヤングアダルト向け、今話題の本、西脇ゆかりの人(ふるさと文庫)など色々なコーナーを作って本を見つけやすくする工夫をしています。

小さな子ども向けには、水曜日に「絵本の時間」、土曜日に「おはなし会」をしています。12月24日(土)には、図書館のクリスマス会を開催し、西脇市図書館サポート市民ネットの皆さんによるお話し会やお楽しみ会、英語のネイティブスピーカーの方による「読み聞かせ」(サンタクロースはほんとうにいるんでしょうか?)をしていただきました。

また、学級単位で1ヶ月50冊の貸出も可能ですので、様々な形で市図書館をご利用ください。

★市内各小・中学校においても、同様の「子どもの読書活動推進の取組」が実施されています!

◆「読書」を通して、培われるもの…

伝説の国語教師と言われる私立灘中の元教師橋本武さんは、「生きる力は読み書きで養われる」と言われています。また、頭ごなしではなく、自然と自分で進むよう求める力を育てていかなければならないとも言われています。「読書」を通して、親子、先生と子どもたちが一緒に学び語り合うことが子どもたちの「豊かな心と考える力」を育むことになると考えます。

家庭・地域・学校の連携促進 「家庭と連携した子どもたちの生活・学習基盤形成」促進